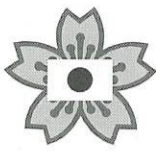


拉致はテロ  
今こそ経済制裁



# 國の支え

(中井信夫元大阪府議会議長・96才)

関西防衛を支える会  
(略称・関防会)  
〒542-0081  
大阪市中央区南船場3-11-10  
心斎橋太陽ビル7階  
(株)経営センター内  
TEL 06-6241-1124 FAX 06-6245-7489  
発行人 高橋季義  
編集人 新川貞敏  
印刷所 (株)新聞印刷

第16号

(秋季号)

平成15年10月1日(水)  
(皇紀2663年)  
(大正紀元92年)  
(昭和紀元78年)

この夏、新潟港で拉致被害家族の皆さんが声をからして、北朝鮮工作船「万景峰号」に向かつて「帰れ」コールを叫ぶ。かたや北朝鮮国旗をちぎればかりに振り、船上に設置したアメリカ製のスピーカーを通じて、愛国歌が港全体に響き渡る様は、異様な応援合戦と化していた。

「船一隻止められない日本って、いったい何なんだ」と、憤るのは拉致被害家族会事務局長の連池透さんだ。北京での六カ国協議が開かれたものの、拉致問題解決の糸口が見出せないやせなさが憤鬱に変わっていた。今回の教訓にわたる万景峰号の入港は、八月二十五日、九月四日と続いたが、これは九月九日の建国五五周年記念の宴に必要な食料を中心に調達計画を描いた結果である。つまり、厨房の都合で、冷凍牛肉は早めに、生鮮食料品は間に合えばいい、といったところの話だ。

北朝鮮唯一の貨客船「万景峰号」を巡る騒動を通じて、あらためて海洋国家としての日本、国家としてのあり方を見つめなおしたい。北朝鮮の元山と新潟のあいだを往來する万景峰号は、工作員への指令を出す、動く司令塔であり、ミサイルに転用可能な機械の輸送船であり、タンボール詰めにした現金を船の甲板に堂々と積み上げ、不正送金の運搬船であるという証言は数多い。運航当初こそ、在日朝鮮人の掃蕩事業のために用いられたが、いつしか金

政権維持のためへと役割を変えた。結果的にそれを支えたのは、検査をあてて忘れたり、見過ごしてきた日本である。十年ぶりという、安全検査、ポート・ステート・コントロール(PSC)の強化も噴飯ものである。千四百人も警察、百人を越えるPSC担当者、多数の公務員を新潟港に投入したが、われわれの税金を使って、一体何をしたか。警察は朝鮮総連への取り締まりというよりは、いわゆる右翼の活動に対して目を光らせていたし、国土交通省は万景峰号の乗客、乗員の安全性を守ってあげただけである。

私も、拉致議連の副会長として新潟港での万景峰号入港拒否運動に駆けつけねばならない立場であったが、海外視察の関係で参加できなかった。また我々、立法者は港でシブレット・コントロール(PSC)の強化も噴飯ものである。千四百人も警察、百人を越えるPSC担当者、多数の公務員を新潟港に投入したが、われわれの税金を使って、一体何をしたか。警察は朝鮮総連への取り締まりというよりは、いわゆる右翼の活動に対して目を光らせていたし、国土交通省は万景峰号の乗客、乗員の安全性を守ってあげただけである。

「ダクトが壊れていますよ」「救助用の無線がありません」と、親切にも指摘し、「次までに直してあげてね」とアドバイスする。わが国の「安全保障」とは、すなわち「海洋国家」日本の「安全保障」だったのかと思うと、うんざりだ。連池透さんが、自国民の拉致という犯罪の解明さえできないわが国政府への怒りがこみ上げて当然と思つた。

「港務局は何人に対しても施設の利用、その他、港湾の管理運営に対し、不公平な取り扱いをしてはならない」という港湾法13条の規定を根拠に猛反対した。すなわち「海洋国家」日本の「安全保障」だったのかと思うと、うんざりだ。連池透さんが、自国民の拉致という犯罪の解明さえできないわが国政府への怒りがこみ上げて当然と思つた。

「非核・神戸方式」とは、国は明確に拒否しなければお

めるなかで、何が「無害」で、どこまでが「無害」か、精査すべきである。もっとも地方の県知事や市長、議会に国家としての問題を押し付けるのは卑怯な行為だ。国家の意思として港湾法に「国家安全保障上の理由で、特定船舶の入港を停止できる」という条文を加えるべきだ。よ

うは意思を持つか否か、いつ行使するか、が問われている。これがすべての基本である。海上封鎖、船舶検査といった軍事行動をとらざるも、高位の制裁措置についても視野に入れておかねばならぬ。米国は北朝鮮への対

りにも近い周辺事態である。真剣にわが国の安全保障を考えるならば、法の未整備部分を洗い出して、早急に法的環境を整えておくのが立法者の責任だと考える。当然のことであろう。

昨年、イエメン沖で対テロ警戒活動中のスペインの戦艦がカンボジア国旗を揚げた不審船を臨検したところ、北朝鮮からのスカッド・ミサイル15基が発見された。わが国もアラビア海でイージス艦を含めた自衛隊の艦船が対テロ共同行動を展開したが、いざ臨検となると、日本は腰が引ける。石油を有しない日本が皮肉にも洋上給油の役を果たせても、臨検となると現状では役立たずなのだ。何より

シレーンの安全性確保は、日本にとって大動脈の確保に他ならない。すでに独立を果たした東ティモールは四世紀前に流れてきた当時の海洋国家ポルトガルが植民地として確保してきた地域であり、宗教的にはカソリックが主流を占める。オランダ統治の歴史と世界最大のイスラム教徒を抱えるインドネシアとは、歴史の基盤が異なる。目下、独立運動を展開中のアチェは少々事情が異なる。同じイスラムでも、ジャワより早くイスラムに帰依し、かつては経済や伝統で優位に立っていたことから、独立を主張している。東ティモールのケースとはかなり背景が違ふ。国軍の事情も複雑に絡むようだが、この瞬間にも二百数十隻に上る。テロやクーデターによる政治的不安定、海賊の出没などの危険性を抱える家形成していたインドネ

## 海洋国家・日本の課題

### 対北朝鮮、シーレーン

環境大臣 小池 百合子

「非核・神戸方式」を、国は明確に拒否しなければお

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

「非核・神戸方式」を、国は明確に拒否しなければお

めるなかで、何が「無害」で、どこまでが「無害」か、精査すべきである。もっとも地方の県知事や市長、議会に国家としての問題を押し付けるのは卑怯な行為だ。国家の意思として港湾法に「国家安全保障上の理由で、特定船舶の入港を停止できる」という

うは意思を持つか否か、いつ行使するか、が問われている。これがすべての基本である。海上封鎖、船舶検査といった軍事行動をとらざるも、高位の制裁措置についても視野に入れておかねばならぬ。米国は北朝鮮への対

りにも近い周辺事態である。真剣にわが国の安全保障を考えるならば、法の未整備部分を洗い出して、早急に法的環境を整えておくのが立法者の責任だと考える。当然のことであろう。

昨年、イエメン沖で対テロ警戒活動中のスペインの戦艦がカンボジア国旗を揚げた不審船を臨検したところ、北朝鮮からのスカッド・ミサイル15基が発見された。わが国もアラビア海でイージス艦を含めた自衛隊の艦船が対テロ共同行動を展開したが、いざ臨検となると、日本は腰が引ける。石油を有しない日本が皮肉にも洋上給油の役を果たせても、臨検となると現状では役立たずなのだ。何より

シレーンの安全性確保は、日本にとって大動脈の確保に他ならない。すでに独立を果たした東ティモールは四世紀前に流れてきた当時の海洋国家ポルトガルが植民地として確保してきた地域であり、宗教的にはカソリックが主流を占める。オランダ統治の歴史と世界最大のイスラム教徒を抱えるインドネシアとは、歴史の基盤が異なる。目下、独立運動を展開中のアチェは少々事情が異なる。同じイスラムでも、ジャワより早くイスラムに帰依し、かつては経済や伝統で優位に立っていたことから、独立を主張している。東ティモールのケースとはかなり背景が違ふ。国軍の事情も複雑に絡むようだが、この瞬間にも二百数十隻に上る。テロやクーデターによる政治的不安定、海賊の出没などの危険性を抱える家形成していたインドネ

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

「非核・神戸方式」を、国は明確に拒否しなければお

めるなかで、何が「無害」で、どこまでが「無害」か、精査すべきである。もっとも地方の県知事や市長、議会に国家としての問題を押し付けるのは卑怯な行為だ。国家の意思として港湾法に「国家安全保障上の理由で、特定船舶の入港を停止できる」という

うは意思を持つか否か、いつ行使するか、が問われている。これがすべての基本である。海上封鎖、船舶検査といった軍事行動をとらざるも、高位の制裁措置についても視野に入れておかねばならぬ。米国は北朝鮮への対

りにも近い周辺事態である。真剣にわが国の安全保障を考えるならば、法の未整備部分を洗い出して、早急に法的環境を整えておくのが立法者の責任だと考える。当然のことであろう。

昨年、イエメン沖で対テロ警戒活動中のスペインの戦艦がカンボジア国旗を揚げた不審船を臨検したところ、北朝鮮からのスカッド・ミサイル15基が発見された。わが国もアラビア海でイージス艦を含めた自衛隊の艦船が対テロ共同行動を展開したが、いざ臨検となると、日本は腰が引ける。石油を有しない日本が皮肉にも洋上給油の役を果たせても、臨検となると現状では役立たずなのだ。何より

シレーンの安全性確保は、日本にとって大動脈の確保に他ならない。すでに独立を果たした東ティモールは四世紀前に流れてきた当時の海洋国家ポルトガルが植民地として確保してきた地域であり、宗教的にはカソリックが主流を占める。オランダ統治の歴史と世界最大のイスラム教徒を抱えるインドネシアとは、歴史の基盤が異なる。目下、独立運動を展開中のアチェは少々事情が異なる。同じイスラムでも、ジャワより早くイスラムに帰依し、かつては経済や伝統で優位に立っていたことから、独立を主張している。東ティモールのケースとはかなり背景が違ふ。国軍の事情も複雑に絡むようだが、この瞬間にも二百数十隻に上る。テロやクーデターによる政治的不安定、海賊の出没などの危険性を抱える家形成していたインドネ

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

シアが、統一の意味合いが薄れてきたことや、政権交代、国軍の肥大化、地方分権化で足並みが揃わなくなっているのは事実である。今後、第二、第三の東ティモールができるのか、否か、それによる海峡の安全保障は十分か、否か。日本も高見の見物とはいかない。少なくとも正確な情報収集が必要である。オランダもポルトガルもともに海洋国家として世界に君臨してきた国である。わが国も四方を海に囲まれ、優れた造船技術を持つ立派な海洋国家だ。海洋国家として、まず自国の安全を守れるよう、しっかりと法整備をする。また世界の海の安全を守るリーダーとしての意識を持つ。今こそ、これらの原点に立ち戻る必要があるのではないだろうか。

### 防衛講話と体験航海

初秋の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は当会に対し深いご理解、ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。つきましては、この度大阪湾・紀伊水道等海域の防衛警備を任務とする海上自衛隊阪神基地隊司令の講話と掃海艇「つきしま」の体験航海をご案内申し上げます。

【日時】平成15年10月4日(土) 午後1時～午後4時30分  
【場所】海上自衛隊 阪神基地隊 神戸市東灘区魚崎浜町37

※お蔭様で定員に達しましたので募集は締め切りました。主催、関西防衛を支える会

～講師紹介～  
海上自衛隊 阪神基地隊司令 海将補 袴田 忠夫(はかまだ ただお)  
昭和25年3月6日 秋田県生まれ 防衛大学校 17期卒業

小池議員は、9月22日の小泉改造内閣で環境大臣に就任されました。これからの活躍に期待します。



# 軍隊の運用原則

有事法のなかに国民の「基本的権利」保護の目的を修正をいれるべしとの議論が、先の国会で為された。そしてさらに、有事における「国民保護法」の制定のために、政府と各知事が懇談会を設けたとの報道も為されている。そこでこの際、国防の根底にある原理とそこから導かれる有事克服のための体制は如何にあるべきかについて、明確な意識を回復しておかねばならないと痛感して、この一文をたたきだした。

何故なら、有事において国民の権利を守るための原則を明記すべきであると強調する者もみている。この者は、国家における有事克服の主体は誰であるか分かっていないからである。この者は、国民は、有事において保護される「客体」にすぎず、決して有事を克服して「主権」を回復する主体にも思っていないのではない。政府・官僚組織もこの点を踏まえずに漫然と「人権」に振り回されているのではない。しかし、近代国民国家とは何か。近代国家とは、そもそも、国民の「人権」を保護するために誕生してきたのだ。国家を維持しなければ人権など守れるはずがない。この観点から、戦後日本では如何に「人権」を守ってきたか。この自明のことを、我が国では、北朝鮮による日本人拉致問題が見事に実証した。すなわち、この戦後日本は、最も国家意識の希薄な空間である。与野党指導層のなかに「国民」という市民と「国民」という「戦後民主主義者」を輩出しているのが今の時代である。この時代の中で、二百名を超える日本人を北朝鮮が拉致することが可能となり、我が国は二十年以上、その被害者を放置して来た。そして、憲法擁護と「人権、人権」と言っている最も人権を侵害されている拉致被害者に無関心であった。これは考えてみれば奇妙な錯誤であり、この錯覚の中で生きていたのが戦後という時代なのだ。

さて、有事において国民の「人権」を守れと強調する論者は、拉致問題における同様の「背信的な錯誤」を犯す論理ではないかと疑っているのである。即ち、国家を無視して人権を守れと強調しているだけでは、その人権確保の最後の拠り所である国家が崩壊すればどうするであろうかと。彼等は、その事態に責任をとれるのか。有事という国家の危機に無関心で人権擁護だけを議論している姿は、北朝鮮に拉致された同朋には無関心で人権擁護だけを強調していた人々とどっぴり重なるのである。さて、拉致問題という有事法制議論について、我々の意識の中で「国家」を明確に位置付けないから以上の誤に陥るのだ。よって、国

家と国民、そして、有事克服の原理について戦後の情性を排して考えてみようではないか。まず第一に、有事克服の主体は誰だ。これは国民ではないか。当然である。我々が、北朝鮮の首領様や封鎖領主の隷属民でない限り、有事克服の主体は我々国民となる。では、この我々国民は、如何に論理矛盾が分かるものではないか。国家の有事を克服する主体が、「国民」なのである。その国民が外国人のように守ってもらって客体としての「国民」にはなり得ない。もちろん、近代国家の機構は、全ての国民が、国家危機に際して等しく現実武器を所持して立ち上がる前提にはない。実際に危機

り、その防衛行動に關与しない客体ではない。これが近代国民国家なのだ。このことが戦後日本人にピンとこないのは、戦後教育が、近代国家における国民(公民)の、権限と義務を教えずにこなかったからであるにすぎない。以上が、国民が国家防衛の主体であることを近代国家における国民の地位に基く「法的権限」から述べた有事克服の前提原理である。次に、このような法的な観点を人間の次元で支える「人間愛の体系」の中で

## 衆議院議員 西村 真悟



8月4日、南海サウスタワーホテルの出版記念パーティー席上で

その地位に相応しい如何なる権限を保持しているのか。それは、「自らの家族と国家を守る」ことができる基本的権利である。そして、この基本権を失効あらしめるために、「国民は武器を携行する基本的権利」を保護している。アメリカ憲法修正第二條は、この人民の保有する権利を明記している。このように国民の地位と基本権を押さえれば、有事法制に国民の権利を守るための条項を求めることは、

克服に取り組む実力組織は、主体たる国民からその権限を委譲された組織が担当する。これが、「国民の軍隊」である。したがって、一見二種の国民がいて見えても、有事を克服する主体である国民と、有事の中にも守られる客体としての国民である。しかし決して古代理論であることと不変である。この共同性を守る愛の体系と見れば、普通だと思つていた戦後日本が、実は人間愛の体系を持たな

い異常な例外的な国であり、戦前の日本が普遍的な普通の国であったのが分かる。しかし、戦後は、普遍的な国を異常な国とし、異常な国を普通の国としたのである。その背信的な過ちを見事に摘出して国民に見せたのが、北朝鮮による拉致被害者を放置した政治構造である。この現在の政治構造こそ、「人の命は地球より重い」との綺麗な言い訳でテロに屈服するのであるが、実態は国民を簡単に見捨てる人間に驚いた。教育勸諭も、父母に孝に兄弟に友に夫婦相和しと人間愛の体系を説き、最後にその愛の集大成の行為として「一旦緩急あれば義勇公に奉じ、以つて天壤無窮の皇運を扶翼すべし」と明示するのである。教育勸諭を共同性における愛の体系と見れば、普通だと思つていた戦後日本が、実は人間愛の体系を持たな

## 有事克服の原理

「基本的権利」保護の目的を修正をいれるべしとの議論が、先の国会で為された。そしてさらに、有事における「国民保護法」の制定のために、政府と各知事が懇談会を設けたとの報道も為されている。そこでこの際、国防の根底にある原理とそこから導かれる有事克服のための体制は如何にあるべきかについて、明確な意識を回復しておかねばならないと痛感して、この一文をたたきだした。

何故なら、有事において国民の権利を守るための原則を明記すべきであると強調する者もみている。この者は、国家における有事克服の主体は誰であるか分かっていないからである。この者は、国民は、有事において保護される「客体」にすぎず、決して有事を克服して「主権」を回復する主体にも思っていないのではない。政府・官僚組織もこの点を踏まえずに漫然と「人権」に振り回されているのではない。しかし、近代国民国家とは何か。近代国家とは、そもそも、国民の「人権」を保護するために誕生してきたのだ。国家を維持しなければ人権など守れるはずがない。この観点から、戦後日本では如何に「人権」を守ってきたか。この自明のことを、我が国では、北朝鮮による日本人拉致問題が見事に実証した。すなわち、この戦後日本は、最も国家意識の希薄な空間である。与野党指導層のなかに「国民」という市民と「国民」という「戦後民主主義者」を輩出しているのが今の時代である。この時代の中で、二百名を超える日本人を北朝鮮が拉致することが可能となり、我が国は二十年以上、その被害者を放置して来た。そして、憲法擁護と「人権、人権」と言っている最も人権を侵害されている拉致被害者に無関心であった。これは考えてみれば奇妙な錯誤であり、この錯覚の中で生きていたのが戦後という時代なのだ。

さて、有事において国民の「人権」を守れと強調する論者は、拉致問題における同様の「背信的な錯誤」を犯す論理ではないかと疑っているのである。即ち、国家を無視して人権を守れと強調しているだけでは、その人権確保の最後の拠り所である国家が崩壊すればどうするであろうかと。彼等は、その事態に責任をとれるのか。有事という国家の危機に無関心で人権擁護だけを議論している姿は、北朝鮮に拉致された同朋には無関心で人権擁護だけを強調していた人々とどっぴり重なるのである。さて、拉致問題という有事法制議論について、我々の意識の中で「国家」を明確に位置付けないから以上の誤に陥るのだ。よって、国

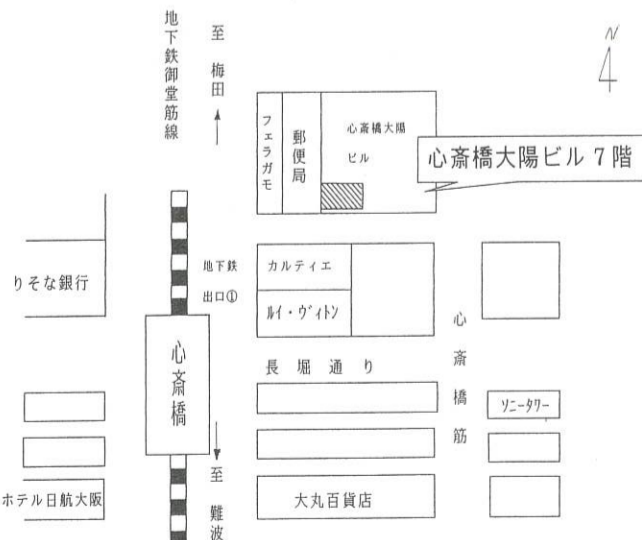
家と国民、そして、有事克服の原理について戦後の情性を排して考えてみようではないか。まず第一に、有事克服の主体は誰だ。これは国民ではないか。当然である。我々が、北朝鮮の首領様や封鎖領主の隷属民でない限り、有事克服の主体は我々国民となる。では、この我々国民は、如何に論理矛盾が分かるものではないか。国家の有事を克服する主体が、「国民」なのである。その国民が外国人のように守ってもらって客体としての「国民」にはなり得ない。もちろん、近代国家の機構は、全ての国民が、国家危機に際して等しく現実武器を所持して立ち上がる前提にはない。実際に危機

り、その防衛行動に關与しない客体ではない。これが近代国民国家なのだ。このことが戦後日本人にピンとこないのは、戦後教育が、近代国家における国民(公民)の、権限と義務を教えずにこなかったからであるにすぎない。以上が、国民が国家防衛の主体であることを近代国家における国民の地位に基く「法的権限」から述べた有事克服の前提原理である。次に、このような法的な観点を人間の次元で支える「人間愛の体系」の中で

い異常な例外的な国であり、戦前の日本が普遍的な普通の国であったのが分かる。しかし、戦後は、普遍的な国を異常な国とし、異常な国を普通の国としたのである。その背信的な過ちを見事に摘出して国民に見せたのが、北朝鮮による拉致被害者を放置した政治構造である。この現在の政治構造こそ、「人の命は地球より重い」との綺麗な言い訳でテロに屈服するのであるが、実態は国民を簡単に見捨てる人間に驚いた。教育勸諭も、父母に孝に兄弟に友に夫婦相和しと人間愛の体系を説き、最後にその愛の集大成の行為として「一旦緩急あれば義勇公に奉じ、以つて天壤無窮の皇運を扶翼すべし」と明示するのである。教育勸諭を共同性における愛の体系と見れば、普通だと思つていた戦後日本が、実は人間愛の体系を持たな

## 関防会 事務所移転

9月1日より下記に移転しました。  
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-11-10  
心齋橋大陽ビル7階  
株式会社・経営センター内  
TEL 06-6241-1124 FAX 06-6245-7489



※ 地下鉄御堂筋線・心齋橋駅で下車し①番出口を利用してください





金美齡女史と談笑



李登輝前總統と語る筆者

# 正名運動とこれからの日台関係のあり方

## 台湾訪問を終えて

兵庫県議会議員

### 筒井のぶお

9月5日、台北市で10万人を集めて李登輝前總統が提唱している正名運動の大会が開催されました。私が加入している「日台関係を促進する地方議員の会」では、関西関東から有志を募って議員団を編成しこの大会に参加しましたが、現地では私たち日本人は熱烈な歓迎を受けた上、運動の盛り上がりには驚かされることが少なくありませんでした。わが国で報道されているのは違つて、これほど多くの人たちが熱い気持ちを持って参加しているのだという事実に驚き、台湾とわが国の将来のあり方について深く考えさせられました。

正名運動とは、中華民国から台湾へと国名を変更し

主張しているが、サンフランシスコ条約では日本が領有権を放棄することは明記されているものの、どこが領有するかは定められていない。文化的な側面も含めて、台湾は台湾である。また、「台湾が国際的に認められず、大変不遇な状況にあるのも中国という国名を使用しているからである。自分の總統時代に遣り残した大事な仕事のひとつが、台湾という国名に変更することと憲法を制定することであった。その仕事を、一民間人として正名運動を通して実現したい。」と私たちに語りかけられました。

この演説を聞いていて、私はわが国の憲法に思いをせずにはいられてしまいました。わが国の憲法も、国民によって議論されることなく、占領軍によって即席で作成されたものが押し付けられ、戦後の歴史の中で独自の憲法であるかのごとき既成事実化が進められてきました。近年、やっと独自に憲法を作り直すという機運が盛り上がり、政治家がそのことと言及できる社会状況が生まれてきたように思われます。台湾の正名運動とは、まさにわが国における改憲、むしろ自主憲法制定の動きとルーツは同じなのではないでしょうか。

さて、今回の訪台では台湾外交部の関係者と意見交換をする機会もありました。私はかねてから、台湾はわが国にとって、極東地域における冷戦をともに戦った同盟国であり、戦友であると考えています。NATOのような先進国による強大な同盟関係の存在しない極東地域で、東側の進出をわが国と米国、韓国、そして台湾とたった4カ国で阻止し、西側の勝利に大いに貢献したのですから、その絆は本来もっと太いはずなのです。ところが、日中国交正常化以降、国交は断絶し、李登輝前總統の訪日すらままならないのが現状です。これが、あの長く激しい冷戦をともに戦った同盟国に対する正当な扱いはないのか、私には到底そうとは思えません。

さて、意見交換の中で、やはり中国軍の軍備増強が話題に上がりました。台湾海峡沿岸地域へのミサイル配備、最新鋭戦闘機の増強、海軍艦艇の増強など、懸念される材料が山のようにあるのです。わが国周辺海域でも、中国海軍の調査船(こはいえ武装した軍艦)が海洋調査という名目で活動しています。特に最近では、東シナ海から太平洋へ進出し始めており、わが国のシーレーン防衛にとって大きな脅威となりつつあります。というのも、私はこの調査が中国海軍の潜水艦が太平洋へ進出するための準備、つまり潜水艦が活動するために必要な海底地形や水温分布などのデータを収集しているのではないかと考えているからです。現在の中国海軍の潜水艦には太平洋で活動する能力はないといわれていますが、スプーイをあれだけのペース

で増強してきた実績を考えると、安穩としているわけにはいかないと思っています。こうした指摘を行ったところ、外交部幹部もまったく同様の認識を示していました。わが国以上に対外貿易に依存している台湾にとって、周辺海域の安全確保はわが国同様に最大の安全保障上の課題で、それを脅かすのは水上艦艇ではなく潜水艦や航空機であると考えているようです。大陸中国は、いまだに武力による台湾侵攻を捨ててはいないようです。正名運動がますます拡大し、台湾が国名を変更し中国でなくなることを宣告しようとしたら、その危険性は非常に高まることは間違いありません。かつて考えられていたような大規模な上陸作戦の可能性は極めて低いと思われませんが、中国軍が制空権を確保しつつ潜水艦による実質的な海上封鎖をするだけで、台湾経済を十分に破壊することができるようになる。こうした事態に陥れば、わが国にとってもシーレーンが脅かされることになるわけですから、死活問題となってきます。また、こうした武力によって問題解決を図る姿勢を許してしまえば、中国と国境を接するベトナムはもちろんで、東アジア全域において領有権紛争や海底資源の問題を武力によって解決しようとする、非常に危険で不安定な状態が生まれるでしょう。このことは、間違いないわが国にとって、著しいというよりむしろ死活的に利益を損なうこととなります。

こうした事態を防ぐためにも、極東の軍事バランスを崩すような中国軍の軍備増強に歯止めをかけることはなりません。特に、航続距離の長い戦闘機と潜水艦の増強をあきらめさせることが必要です。冷戦時代、わが国は海上自衛隊を対潜水艦戦闘に特化させ、3海峡の封鎖能力を持つことと、連潜水艦隊を封じ込めました。今後、こうした取り組みが必要となつてくるのではないのでしょうか。こうした観点から私は、台湾外交部幹部に、これからの台湾軍は大陸反抗ではなく対潜水艦戦闘やミサイル防衛を中核とすべきではないかと指摘しました。わが国もシーレーン防衛の観点から、同様の取り組みを行う必要がある、こうした周辺諸国の対応を中国に見せることによ

って、無用の軍拡競争を中国に思いとどまらせることができるという意見を申し上げました。台湾外交部幹部もまったく同意見で、そのために世界最高水準のわが国のディゼル型潜水艦が欲しいとまで踏み込んできたのです。わが国が武器を輸出できないことは当然理解したうえで、発言から、むしろわが国の中台関係へのコミットメントを求めたと理解すべきなのでしょう。とかく朝鮮半島情勢に目を奪われがちですが、今回の台湾訪問で、台湾問題が朝鮮半島同様わが国の安全保障上のもつひとつの最重要課題であることを再認識しました。また、台湾がわが国の友好国であり同盟国であり続ける意思をはっきりと感じ、わが国の台湾に対する姿勢のあり方について、問題意識を新たにいたしました。

### 語るに師あり、友ぞある

#### 御入会のお願い

- \* 法人会員・年会費 20000円(1口)
- \* 維持会員・年会費 10000円(1口)
- \* 一般会員・年会費 3000円(1口)

銀行振込みの場合、振込人の住所が判らない為、ご案内等の発送ができません。住所ご連絡くださるようお願い申し上げます。

郵便振替 No.00960-2-137035  
 加入者名 関西防衛を支える会  
 三井住友銀行守口支店 普通口座 1261314  
 口座名 関西防衛を支える会

#### 陸上自衛隊・伊丹駐屯地 中部方面隊43周年創立記念

- \* 10月5日・10時30分開会
  - \* 観閲式・展示訓練など
  - \* 場所・伊丹市緑ヶ丘7-1-1
  - \* 電話・0727-82-0001
  - \* 阪急電車伊丹駅およびJR東西線伊丹駅より送迎バスあり(無料)
- 詳細は広報室へお問い合わせ下さい

#### 陸上自衛隊・八尾駐屯地 中部方面航空隊41周年創立記念

- \* 10月19日・10時開会
  - \* 観閲式・展示飛行など
  - \* 場所・八尾市空港1-81
  - \* 電話・0729-49-5131
  - \* JR大和路線・紀志駅下車・徒歩約10分
- 詳細は広報室へお問い合わせ下さい



# 平野郷

## 大和川開鑿300年にむけて

来年は大和川開鑿して300年の記念の年だ。大和川が実現して1000町歩の新田が誕生した。綿の栽培が始められ、国中で珍重された河内木綿の登場は、全国に河内の名を高らした。さらに秋の収穫の時には河内首頭で花を咲かせた。

室町・戦国時代が終わり、徳川幕府の統治となり260年続いた。徳川幕府の直轄領となった平野郷は、坂上田村麿の子孫の七名家が町の運営を続けた。戦国時代が終わった頃には道らしい道が無かった。戦国時代が唯一の物資交流の手段となった。1000人で運ぶ物資が10人の船頭で運搬できる特長があった。幕府の許可を得た末吉丸は遠く東南アジアに貿易船を交流させた実績がある。船便で北海道の海産物、九州の砂糖キ、南海の産物を運んだ。平野川が建設されて以来、平野郷町に輝かしい歴史を作った。

江戸時代の中心は杭全神社だ。藩代官所は平野小学校に存在していた。神社入口の鳥居がある周辺には、弁天池、お茶池、広東池と大きな池に囲まれている。河骨池船溜所があった。千石船は余慶橋のところから、大池の集結地となっていた。それが浜町で、物資は市

### 大阪府議会

第78代議長(前議員)

## 吉村 鉄雄

町に集まる人々に捌かれた様だ。明治維新までの100年間は古河藩が平野郷を治めた、今も色濃く存在感が残っている。

平野郷は周囲に堀をめぐらし13の砦で守られた自治領だった。七名家が中心として運営され、300年前の宝暦年間には流暢な街並みが完成されていた。京都に見る見事な町作りだ。町の年中行事の中には、春の田植え行事や、秋の収穫行事と、年始めの行事は七名家が中心で式典が営まれた。町中全体で参加するのが夏祭りだ。今に残る絵物語の記録によると長い行列は盛大なものだ。出発の時は町の年寄者が先頭を飾り、猿太の人力車がつぎ、神主一行が並び、続いて各町役員が印半纏を着用して行列に続き、各町若衆が鉢巻、印半纏で元気よく、ワッショイ、ワッショイの掛け声が続いて、散郷の総代に続いて町の有力者が続き古河藩役人が最後を飾る。

毎年5月23日の坂上田村麿の命日には、神社の中の田村堂で徳富会の催しがあった。末吉家の功績は数あるが、特筆すべきは、吉野山に桜の木を7万5000本植えた事だ。今に残る、上の千本、中の千本、下の千本と、訪れる人々を感激させている。

## 学徒出陣六十年慰霊祭

### 10月25日(土)は護国神社へ

今年、学徒出陣六十周年。当時は大東亜戦争の戦局が拡大する中、学徒たちは国と郷土、家族を守るために学び舎よりペンを銃にもちかえて戦地に赴かれました。私たちはその国の方針は別として、国を思い、郷土、家族の平和と幸せを願って進んで戦いに出征された若き青年の思い、英霊の意志を継承するところから、日本の再生は始まると確信します。

国立追悼施設構想を完全に絶ち、靖国神社を日本再生の拠点として、戦後、蔓延している「東京裁判史観」「憲法の政教分離原則」を克服し、わが国の国柄を象徴する靖国神社を永遠に守り継ぐために、私共は終戦六十年を迎える17年までの3カ年間、英霊顕彰事業を展開します。

この慰霊祭は、戦前、戦中、戦後世代が集まり、戦場、銃後の体験を青年・学生に語り伝えていく集いです。祭典は大阪府神道青年会をはじめとする若手の神職の方々によって心を込めて斎行されるとともに、当時、学徒出陣された方々にも多数、ご参列して頂く予定です。ご年配の方や若い方、ご家族連れで是非、大阪護国神社に参集致しましょう！

- 日 時 10月25日(土) 午後1時～5時45分(受付 12時半)
- 祭 場 大阪護国神社(TEL 06-6681-2372)  
大阪市住之江区南加賀屋1-1-77  
※地下鉄四つ橋線「住之江公園」駅下車、①番出口よりすぐ
- 内 容
  - ・祭典(午後1時～2時)
  - ・大学生による吹奏(2時～2時半)
  - ・映画上映(3時～4時) [於、儀式殿高砂]
  - 『私たちは忘れない！—感謝と祈りと誇りを—』(時間 50分)
  - ・直会(4時15分～5時45分) [於、儀式殿 大広間]
- 参加費 祭典・映画参加の方は 1,000円(玉串料を含む)  
祭典・映画・直会の方は 3,000円(玉串料を含む)
- 「激動の20世紀—近代日本と大阪」パネル展  
10月20日(月)～25日(土) 午前9時半～午後6時 護国神社儀式殿 大広間
- 主 催 日本会議大阪
- 共 催 大阪府神道青年会  
英霊顕彰事業ボランティアスタッフ募集瓶庫裏  
連絡先/事務局 06-6245-5741(大阪府神社庁内)

# 戦地に赴かれた方々の思いを我が思いに



8月15日、大阪護国神社にて関西防衛を支える会会員

### 編集後記

\*野中弘務氏が政界からの引退を表明したが氏の中国、北朝鮮への謝罪外交は国益を損ない、大きな禍根を残した。無刻印の金塊(北朝鮮製と言われた)を事務所に隠し持っていた故金丸信氏の後継者である野中氏の引退は国家民族の為にメダライとある。

\*もう一つ、国益を追求し我が国の良識を代表する西村真悟代議士が橋本龍太郎首相の中国公安当局に所属する支那女との親密な交際を国会で追及した報復に、その選挙区(大阪17区)に岡下信子なる寡婦を対抗馬に立てて野中氏は橋本ととも執拗に応援に来て、選挙区での西村氏に苦杯を嘗めさせた。その折り、言いたる流民(選挙民)とはこの事かと慨嘆したが、この亡国へ誘う派閥が溶解する事は大歓迎である。

\*東京農大創立百周年の式典に今上陛下が出席され祝意を述べられているビデオがある。これなど農大OBの金丸信氏の皇室の政治利用の典型ではないか。しかも北朝鮮からいかにがわしい金塊を受け取っていた時期と一致する。外国の毒マンジウを食うなど国賊であり、野中氏も同類だろう。

\*今回の自民党総裁選挙では、小泉総理が圧勝したが野中・橋本に担がれて藤井某が立候補した。この男は財界の政治部長と謳われ後に参議院議員となった新日本製鉄の元副社長の倅らしい。過日のテレビで、この藤井某は西村代議士の国会質問に卑劣な野次を飛ばして質問妨害しているのが写っていた。野中・橋本の子分であり、鈴宗の兄弟分である。こんな低劣な男は総理不適任であり今後の監視を厳しくしなければならぬ。高村正彦氏に投票した

ほつが日本人らしい。年末の日経新聞に一年後の総理

を当てるクイズがあるが、ここ数年、高村正彦と書いては外れているが総理にしたい人物である。

\*小会の顧問である小池百合子衆議院議員が小泉第二次改造内閣で環境大臣に就かれた。おめでとう御座います。(新)

## 第4回拉致被害者救出 大阪大集会

横田さん御夫妻、佐藤勝己会長出席  
期 日 10月18日 14:00～  
会 場 大阪市中央公会堂(中の島)  
主 催 救う会大阪 代表 朝生万里子  
TEL 06-6846-9567

### ハゲてたまるか!!

月刊「杜快」「自然と健康」で特集された夢の育毛剤!!  
薄毛・抜毛・白髪・円形脱毛はもちろん慢性疲労・精力減退・更年期障害にも!!  
はっせいがん  
**髪精丸α**  
120粒(1ヶ月分)13,000円  
Beauty Health Laboratory  
ビー・エイチ・ラボ  
〒553-0006 大阪市福島区吉野4-27-12  
TEL(06)6462-5820 FAX(06)6462-5824  
携帯・PC共通 http://bh-labo.net

株式会社サンワ運行委託  
送迎バス運転代行の安心と信頼の責任集団  
大阪 06-6699-3333  
神戸 078-6652-5645  
福岡 092-777-5645  
代表取締役 山本 覺  
〒570-0806 大阪府守口市菊水通二丁目十九番一  
〒652-0806 神戸市兵庫区西柳原六丁目四

## ビジネスインナンバー

交通至便・駅前・一泊五五〇〇円(税込)迄  
〒556-0011 大阪市浪速区難波中一丁目二  
TEL(06)6644-5111  
FAX(06)6644-5111